

トルコ・シリア地震 被災者緊急支援事業 オンライン報告会



4月26日(水)
19:00~19:45
@Zoom

ご注意事項



- 今回の報告会は、アーカイブ配信を予定しております。
そのため録画をいたしますので、ご了承ください。
- マイクはミュートに設定をお願いします。
- 配信画面の録画、スクリーンショット、録音はお控えください。
- ご質問は随時、チャット欄へお寄せください。

はじめに



クラウドファンディングに挑戦中！ 5月13日まで

トルコ・シリア地震 被災者緊急支援募金のお願い



集まった支援総額

1,094,000 円

目標金額

達成 **1,000,000 円**

NEXTゴール

1,500,000 円

109%

達成まで

406,000円

支援者数

17人

残り

18日

2023年5月13日まで

ケア・インターナショナル ジャパンは、国際NGO「CARE」の一員として、「トルコ・シリア地震被災者緊急支援募金」を開始しました。
皆さまのあたたかいご支援を、心よりお願い致します。

<https://congrant.com/project/care/6135>



本日の流れ



19:00～19:45

1. 国際NGO「CARE」についてのご紹介

2. 「トルコ・シリア地震 被災者緊急支援事業」活動報告

— マーケティング部 轟木 典子

3. 緊急支援におけるジェンダー視点の重要性

— 理事、JICAシニアジェンダーアドバイザー 田中 由美子氏

4. 質疑応答

はじまりは、「CAREパッケージ（ケア物資）」



■食べ物

缶詰と缶切り、全脂粉乳、チョコレート、干しぶどう、小麦粉、砂糖、マーガリンなど

※「乳児向け」、「幼児向け」、「標準食糧」など、発育段階に応じて異なる支援物資。きめ細かい配慮が。

■生活必需品

石鹸、木綿生地、シャツ、毛布など

■経済的な自立を促進する物

医療器具、大工用具、左官工事や電気工事のための道具や材料、農作物の種子や農具

支援を受ける側だった「戦後の日本」



1945年、戦後のヨーロッパを支援するために、アメリカの22の団体が協力して緊急支援物資を送ったのが、CAREの始まりです。

そして、1948年から8年間に亘り、**1,000万人の日本人**がCAREからの支援物資を受け取りました



父親を原爆で失った広島少女



長崎の孤児院で暮らす戦災孤児たち



夫と息子を戦争で失った沖縄の女性



日本が経済成長を遂げた**1987年**、今度は

日本こそが、世界で苦しむ人々の助けになろう

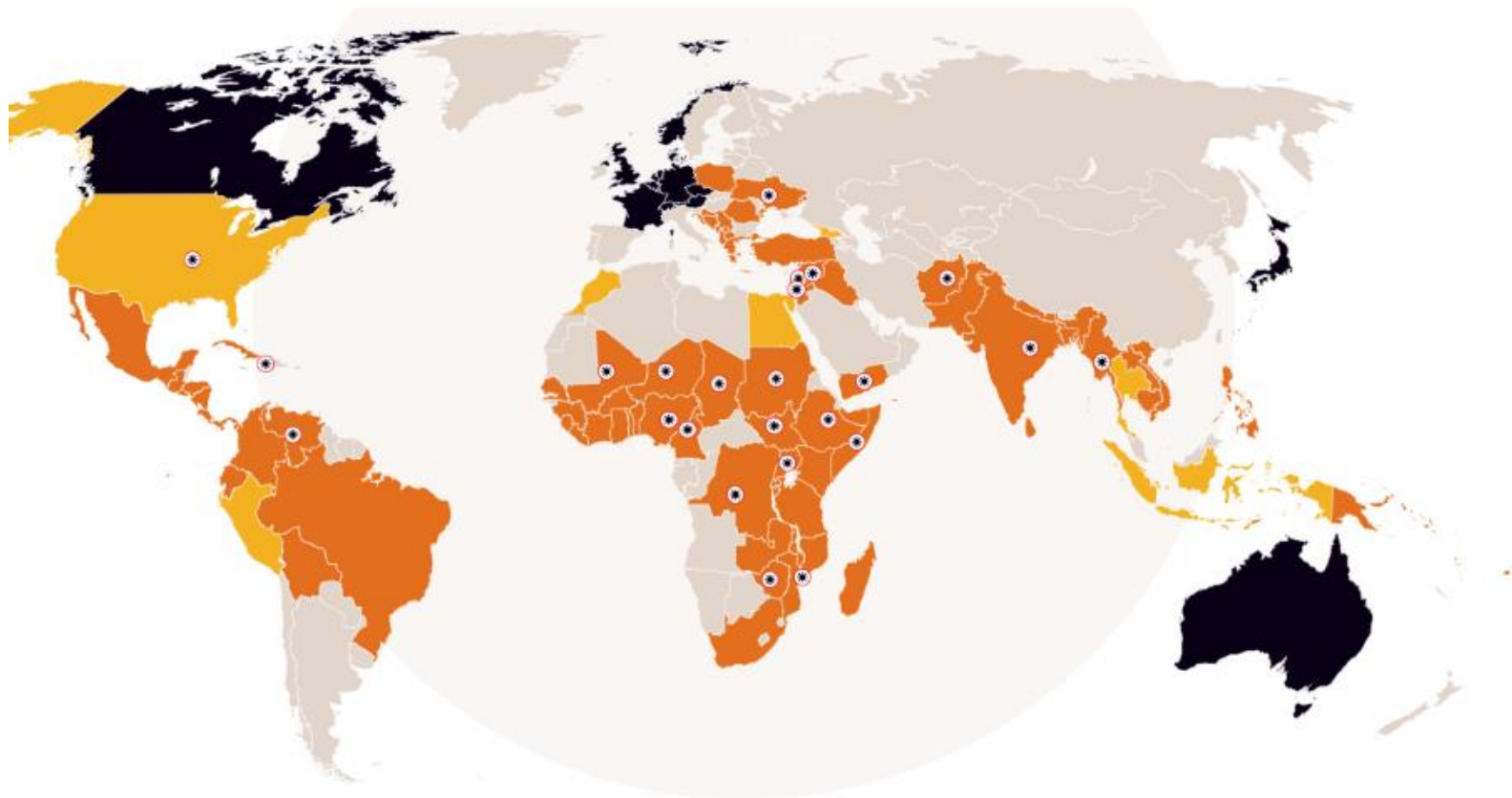
「恩返し」の想いで、ケア・ジャパンが発足しました。

CARE (ケア・インターナショナル)

The Cooperative for Assistance and Relief Everywhere



世界111ヵ国で、約1万人の職員が活動
年間 **1,631事業**を通じて、**1億7,400万人**を支援しています（2022年度実績）



国際NGO「CARE」 ビジョン、ミッション、フォーカス



Our vision

We seek a world of hope, inclusion and social justice, where poverty has been overcome and all people live with dignity and security.

CAREは、貧困のない、すべての人々が尊厳をもって安心して暮らせる、希望に満ちた、包摂的で公正な世界を目指しています。



Our mission

Save lives, defeat poverty, and achieve social justice.

CAREは、人々の命を守り、貧困をなくし、公正な社会を創ることを使命とし、世界中でその実現に向けて取り組めます。



Our focus

We put women and girls in the center because we know that we cannot overcome poverty until all people have equal rights and opportunities.

CAREは、「女性と女子」を活動の中心にすえます。
貧困をなくすためには、女性と女子を含むすべての人々が平等な権利や機会を得る必要があります。

トルコ・シリア地震 被災者緊急支援 ～～



<https://youtu.be/GeBA0fCI83Y>



トルコ・シリア地震 被災者緊急支援 ～被害状況～



© 2023 CARE

犠牲者

50,000人以上

負傷者

115,000人以上



©CARE International

倒壊した建物

224,000棟以上

発生した瓦礫

1億1,600万トン以上



©CARE Germany

家を失った人

300万人以上

仮設住宅で暮らす人

190万人以上

トルコ・シリア地震 被災者緊急支援

～内戦で傷ついたシリアの人々に追い打ちをかけた地震～



©CARE

2011年以降続く
長年にわたる内戦



シリア北西部で
人道支援を
必要としている人々

410万人

トルコ・シリア国境付近で
簡易テントで生活する人々

200万人

トルコ・シリア地震 被災者緊急支援 ～支援実績と体制～

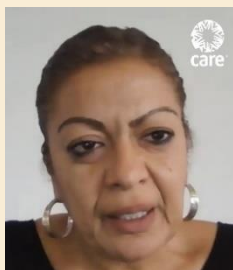


これまでに、**57万人以上**に支援を届けました

(2023年4月20日時点)



長年シリア北西部で活動を展開してきた
CAREトルコが中心



事務局長
シェリン・イブラヒム



現地パートナー団体



トルコ・シリア地震 被災者緊急支援 ～支援内容～



居住

シェルター、テント、ヒーター、
キッチンセットの提供、瓦礫の撤去など

163,000人



家には住めないのです、ここに住んでいます。
このテントがなかったら、どうなっていたか、どこに行っ
ていたかわかりません。本当に感謝しています。

(ファティマさん、68歳)

トルコ・シリア地震 被災者緊急支援 ～支援内容～



食糧

189,000人



衛生

192,000人



これまで訪問したすべての場所で耳にしたのは、清潔な水の必要性です。人々は飲料水の確保を、人道支援や配給に頼っています。また、石鹼やタオルなどの衛生用品不足や、清潔で安全な衛生施設にたどり着くことが困難であることも報告されています。



CAREトルコ WASH(水、衛生設備、衛生)
およびシェルターエンジニア

Hazal Guvercinci

トルコ・シリア地震 被災者緊急支援 ～支援内容～



保護

4,000人



健康

12,000人

医療や支援を緊急に必要としている妊婦: 約356,000人

→そのうち約38,800人が今後1カ月以内に出産予定



アル・アマル病院
Dima Um Nour博士

震災以前と比べると、流産は2倍、死産は3倍に激増しています。また早産も10～12%増加して、10人中3人が未熟児出産です。

地震に加え、不衛生な生活環境、安全な飲料水や食料の入手がほとんどできないなど、精神面を含め、住民の健康状態がさらに悪化しているのです。



トルコ・シリア地震 被災者緊急支援 ～子どもたちへの影響～



被災した子ども **700万人以上**

(トルコ460万人、シリア250万人／ユニセフ 2月16日時点)



▲瓦礫の下から見つかった、
生後わずか9日で被災し、亡くなった少女の身の回り品



▲瓦礫の除去作業を行う13歳の少年

トルコ・シリア地震 被災者緊急支援 ～弱い立場におかれる女性たち～



North-West Syria

GENDER IN CRISIS



CARE Rapid Gender Analysis – North-west Syria



RAPID GENDER ANALYSIS

SACRIFICING THE FUTURE TO SURVIVE THE PRESENT:
Findings from north-west Syria

Population ¹



49.9%
FEMALE



50.1%
MALE

Population Age ²



30.7% are aged 0-14 years
4.9% are over 65 years old



Percentage of the
population
reporting at least
one disability ³



27%
FEMALE



28%
MALE



Women's Voice and Leadership (2016) ⁴



13%
FEMALE



87%
MALE

Gender-Based Violence ⁵



38%

Prevalence of physical and/or
sexual violence against ever
married women in their lifetime

Education ⁶

Adult (15 years
and older)
literacy rate,
2014



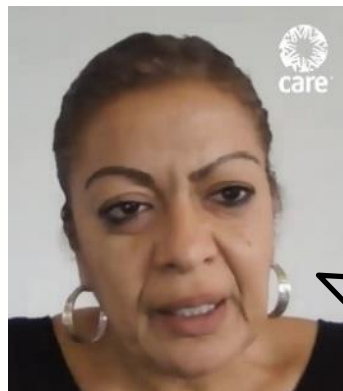
80.9%
FEMALE



91.6%
MALE

＋災害時のリスク (治安悪化、ジェンダーに基づく暴力、性的搾取、人身売買等)

トルコ・シリア地震 被災者緊急支援 ～脆弱性の高い人々へのフォーカス～



CAREトルコ事務局長
シェリン・イブラヒム

ニーズは常に進化し続けるため、CAREは最も脆弱なコミュニティへの支援に特に重点を置き、幅広い人道支援に取り組んでいます。

また、例えば、ビジネスを再スタートさせ、苦勞して得た利益を取り戻すことができるような小規模な助成金を通じて、人々、特に女性の生活と回復力の回復を支援しなければなりません。

◆難民キャンプごとのサービス格差の調査

イドレブ県のダナ、カフル・タハリム、マーレ・タムスリン小地区や、アレッポ県のアフリン小地区など、サービス格差が大きい地域への支援を注力

◆女性起業家に対するリーダーシップトレーニングや助成金

当面のニーズを満たすという緊急性を超えて、ビジネスの立ち上げや再開、拡大によって復興することを支援

トルコ・シリア地震 被災者緊急支援 ～女性や子どもへのフォーカス～



CAREの人道支援の特徴

特徴1 : 「女性や女子」など脆弱性の高い人々への支援にフォーカスします

特徴2 : 「支援が行き届いていない地域や人々」を優先します

特徴3 : 「多様性」に配慮します

特徴4 : 「緊急だけでなく、復旧・復興までの支援」にコミットします

特徴5 : 「現地パートナー団体と協働」します



被災地の協力団体やその地域の人々と共に、
個人・社会全体の回復能力向上を目指す

緊急支援・災害復興におけるジェンダー視点 の重要性



Photo: CARE International Vanuatu, 2017, *Does gender responsive disaster risk reduction make a difference?: A comparative study of Category Five Tropical Cyclone Pam in Vanuatu.*

ケア・インターナショナルジャパン理事
(JICAシニアジェンダーアドバイザー)

田中 由美子

2023年4月26日

第3回国連防災世界会議

2015年3月14-18日
「仙台防災枠組(2015~2030)」



- 187 加盟国、6,500人以上の参加
- CSO、国際機関などによる350 以上のワークショップ
- 多様なステークホルダーの意思決定過程への参画(社会的包摂アプローチ): 女性、若者、障がい者、貧困者、移民、先住民、ボランティア、高齢者など、関連する全てのステークホルダーが災害の政策・計画・基準の企画立案及び実施に関与。
- 女性と若者のエンパワーメントとリーダーシップ
- 性別、年齢別、障害別などのデータ収集と分析。



誰一人取り残さない No one will be left behind



**Goal 5 : ジェンダー平等
と女性・女児のエンパ
ワメントの達成:**
SDGsの17のゴール全てを
達成するために必要 (横
断的目標)



Goal 1, 11 & 13 :
**災害リスク削減 (Disaster
Risk Reduction) と仙台防
災枠組の目標達成**

災害とジェンダー課題

- 災害に対する脆弱性は一様ではない： ジェンダー、年齢、障害の有無、民族、国籍、経済や教育のレベル(複合的、交差的な差別や偏見、社会構造)、などにより脆弱性が異なる。
- 貧しい人や少数民族、土地を所有しない低カーストの人々は、土砂崩れや洪水の被害にあいやすい場所に住んでいることが多く、災害でより貧困・脆弱になり、復興に時間がかかる。
- 多くの大災害では、概して女性の被害者の方が多い。
- 女性は、日常的に経験している不平等な状況・役割・関係性により、災害が起きると、より大きな被害を受けやすい。日常的な格差や差別が脆弱性の要因になる。
- 同時に、女性が防災の担い手、リーダーとして、防災計画の策定や制度づくりに積極的に参画し、防災リーダーとして活動していくことにより、より災害にレジリエントな社会が実現する。



災害から受ける被害はジェンダー・多様性によって異なります

年	災 害	被災の差異
1989	カリフォルニア地震	地震の後、女性に対する性的暴行や児童虐待が増加。
1991	バングラデシュ・サイクロン	死者は13万2000人。女性の死者数は男性の5倍。すべての年齢層で男性より女性の方の死亡率が高く、20～49歳では、女性の死亡率は男性の4～5倍。
2004	スマトラ沖大地震・インド洋津波	スリランカ：13,000人以上の死者と行方不明者の65％が女性。うち19～29歳の女性の割合が79％。 アチェでも犠牲者の77％が女性。
2005	ハリケーン・カトリナ（ミシシッピ河口）	死者は1800人以上。自動車を持たない多くの貧しい人が逃げ遅れた。
2008	サイクロン・ナルギス（ミャンマー）	死者の61％が女性。18～60歳の女性死亡者は男性の2倍以上。（Caritas International 2008）
1994	阪神淡路大震災	女性の死者は男性より1000人多かった。 特に女性の高齢者（家屋崩壊）。男女とも20～24歳の若者に死者（被災地に大学が集中）。
2011	東日本大震災	女性の死者は男性より1000人多かった。60歳以上の高齢者は人口の32.1％、しかし死亡者の65.8％を占めた（警察庁、平成22年度国勢調査）。障害者の死亡率は健常者の2倍以上。
2013	台風ヨランダ（フィリピン）	レイテ島では男性が家や家財を守るために残り逃げ遅れて多数亡くなった地域もある。
2015	ネパール地震	震災で死亡した8,702人のうち、 4,801人（55％）が女性。 死亡者のうち、成人女性は全体の38％、成人男性は30％、女子は17％、男子は15％（NPC 2015c:Figure 18.1）。ヌワコットでは、女性の死亡者は、55.32% (Sotaro Tsuboi, 2016)。

1991年バングラデシュのサイクロン： なぜ女性・少女の死者数は男性の4～5倍だったのでしょうか？

- 固定的性別役割： 女性は、家屋内の財産を守らないといけない、乳幼児や子連れで家畜を守りながら避難しようとして、逃げ遅れた。
- 教育を受けていない： 女性の識字率が低く、避難情報、災害に関する知識、避難経路、シェルターの場所などの情報がなかった。
- ジェンダー規範： サリーが巻き付いて泳げない、女性・少女は水泳をしてはいけない。木登りもしてはいけない。
- 自己決定できない： パルダ(男女隔離)規範により、知らない人が多いシェルターに行かれない、男性と一緒にないとコミュニティの外に行けない。男性がすべて決めるので、男性不在の場合は自分で逃げられない。

ただし、近年このような状況は大幅に改善され、女性も防災研修を受けたり、ジェンダー視点に立った防災ガイドラインもできてきている。



https://www.unicef.or.jp/kinkyu/bangladesh/2007_1103.ht

(出典：Enarson & Meyreles 2004, Anderson 2006 Ikeda, 1995, 及び斎藤^m,2012)

2015年ネパール地震で判明したジェンダー課題

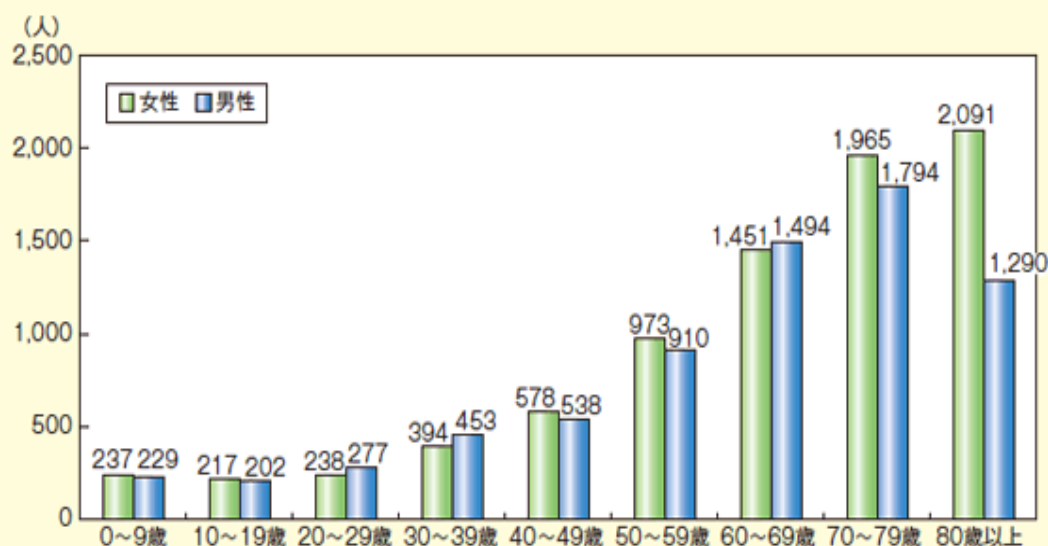
- 男性は出稼ぎで転出している地域が多く、女性が家事や農作業をしており、子どもや高齢者、家財を救うために逃げ遅れた。男性・男子は、死亡者より負傷者のほうが多かった(NPC 2015c:235)
- 社会、経済、インフラ分野における被災により、貧困世帯が食料や収入を得ることが困難になり、家族による保護と代替的収入源の喪失が重なり、性暴力、ジェンダーに基づく暴力の増加、人身取引、児童労働(男女)、児童婚(男女)のリスクを高めた。
- 住宅に関しては、約498,000戸が全壊し、250,000戸が部分倒壊した。全壊した住宅の26%は女性世帯主世帯であり、41%がダリットと先住民、23%が高齢者世帯。女性は、住宅や土地の19.17%しか所有していないため、住宅再建プログラムから除外される可能性があった。
- 多くの女性は農業に従事しているので、代替的生計手段がない女性にとって農業への被害は大きな問題。小さい家畜(ヤギ、豚、鶏)は女性が所有しているが、最初に売られてしまい、その結果、更に生計が困窮した。さらに約20～30%の灌漑施設も破壊された。



PDNAジェンダー・ガイドライン (WB & UNDP 2013)

2011年 東日本大震災

第1図 東日本大震災の男女別・年齢階層別死者数(岩手県・宮城県・福島県)



(備考) 1. 警察庁「東北地方太平洋沖地震による死者の死因等について【23.3.11～24.3.11】」より作成。
2. 性別不詳、年齢不詳は除く。

- 2011年5月:
死者14,281人、
行方不明者
8,492人。
- 岩手、宮城、福
島3県の死者:
男性5,971人、
女性7,036人。
- 障害者の死亡
率は、健常者の
2倍。

出典: 内閣府(2012)男女共同参画白書平成24年度

東日本大震災の後、女性が直面した困難

■ 避難所の生活環境

- プライバシーがない（間仕切りがない）
- 慢性疾患の悪化、感染症、便秘、低栄養や生活不活発病。
- 女性ばかりが食事や掃除をする。（固定的性別役割）



■ 避難所の運営は男性

- 避難所の責任者は大半が男性（年配の男性、自治会長、地元の有職者）
- 女性性や高齢者など、多様な人々の意見が反映されない。女性が必要なものについて声をあげられない。
- 「贅沢は言えない」風潮、不満があっても我慢せざるを得ない雰囲気になりがち。

■ 性暴力・ハラスメントの被害が増加

■ 生計の回復、仕事に戻れない

- 女性は、非正規雇用が多く、先に解雇されてしまう。
- 家族の世話や、避難所での家事・ケアワークなどで、仕事に戻れなくて、失業する。

■ 関連死が増加

- 避難生活が続くと関連死が増加。アルコール依存や孤独死は男性が多い（7割）。

1. 地域の女性防災リーダーの養成:

防災計画や対応にもっと女性の声を！



仙台、盛岡などで、地域の女性NGOが、研修を実施。

写真:田中

3. 女性防災クラブ平塚パワーズ 小学校などでの防災トレーニング 年間70回、約6000人



写真: 女性防災クラブ平塚パワーズ



4. おの女性防災グループ：クローバー



<https://www.kobe-np.co.jp/news/hokuban/202104/0014215103.shtml>

- 防災学習に関心がある兵庫県小野市の女性たちがつくる市民グループ「クローバー」が、外国人に向けた啓発活動を展開している。
- 技能実習生として小野市に来日しているインドネシア出身者らに向け、防災マップなどを使った学習会などを実施。



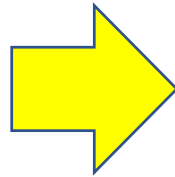
本来は、雇用している企業が、資金手当てをして、労働者の防災訓練を実施することが望ましい。

5. 避難所 間仕切りもプライバシーもない状況からの進展

2011



(Source: Inabe City, and WB 2014)

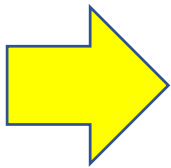


2016



(Source: Kumamoto
Voluntary Architects'
Network (VAN) and
Shigeru Ban
Architects)

新型コロナウイルス感染症対策も



<https://www.iza.ne.jp/kiji/events/photos/200714/evt20071418240029-p1.html>



<https://news.yahoo.co.jp/articles/49da6bab9ff46d157e096b70c37ddf2f70574471/images/000>

6. 女性に対する暴力防止ホットライン

(多言語対応)



パープルホットライン

- パープルダイヤル (24時間対応)
- ラジオ番組
- カウンセリング
- カウンセラー、ケアワーカー、弁護士、医療従事者の研修。
- 女性シェルターネットワークが運営



© CanStockPhoto.com - csp56821328



よりそいいホットライン

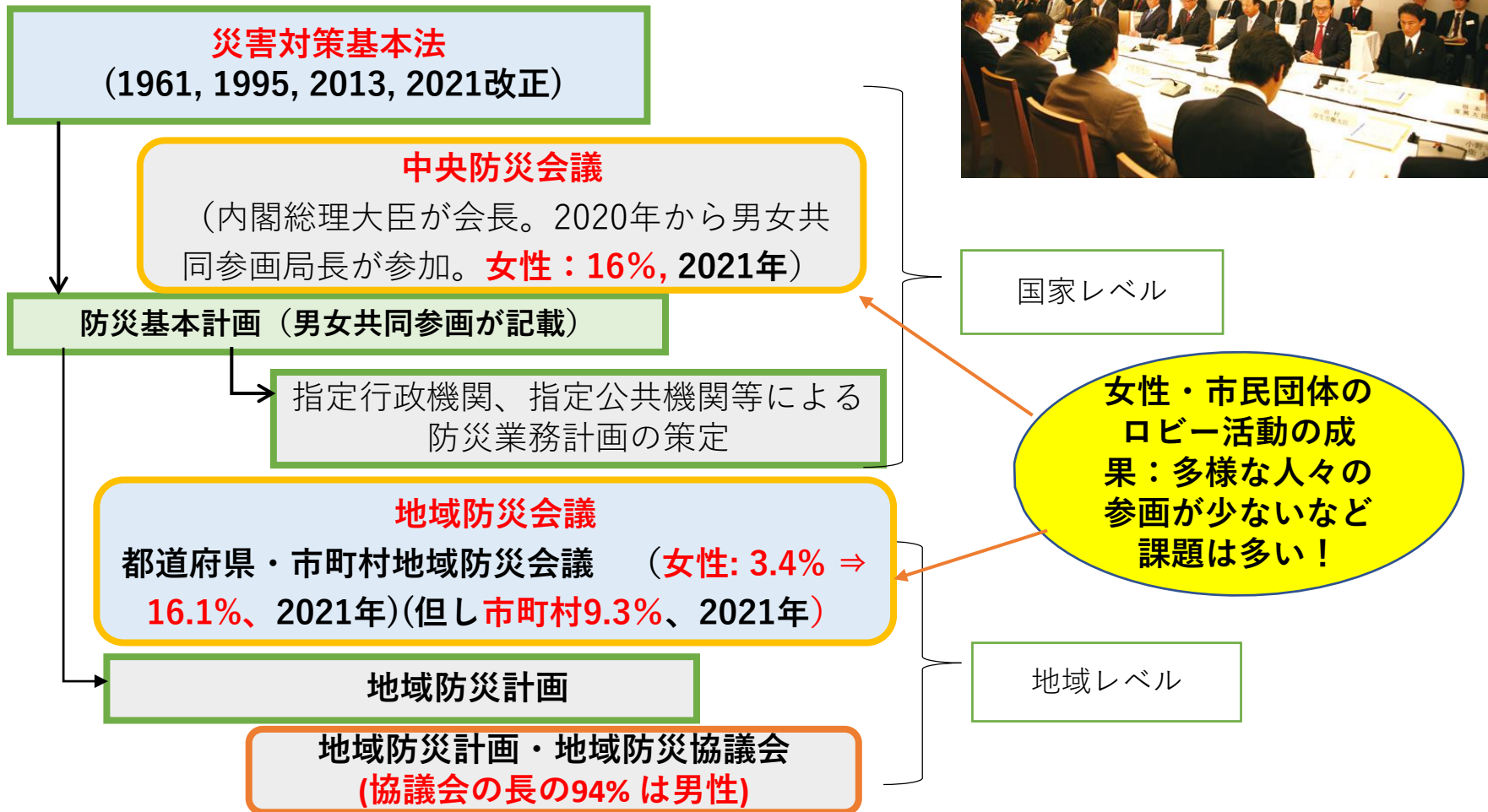
- DV やジェンダーに基づく暴力に対応。
- 電話相談やカウンセリング
- 日本語とその他10言語で対応している
- 全国に200カ所のオフィス。

7. 女性を中心になった復興計画 石巻市北上地区 につこり団地



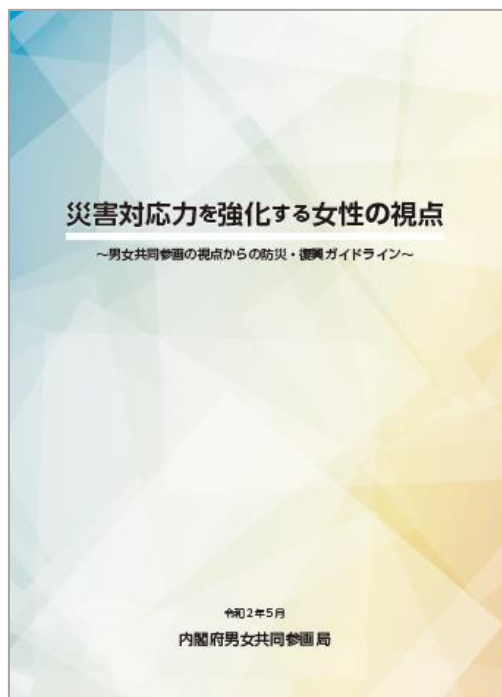
北上地区は大きな津波被害を受けた。地域の女性グループが、地方行政が進める高台への集団移転計画に参加。自分たちのニーズに合った復興住宅を建設することに成功。仙台の建築家と相談しながら進めた。

日本政府の防災体制



災害対応力を強化する女性の視点 ～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～

令和2年5月 内閣府男女共同参画局



7つの基本方針

1. 平常時からの男女共同参画の推進が防災・復興の基盤となる
2. 女性は防災・復興の「主体的な担い手」である
3. 災害から受ける影響やニーズの男女の違いに配慮する
4. 男女の人権を尊重して安全・安心を確保する
5. 女性の視点を入れて必要な民間との連携・協働体制を構築する
6. 男女共同参画担当部局・男女共同参画センターの役割を位置付ける
7. 要配慮者への対応においても女性のニーズに配慮する

https://www.gender.go.jp/policy/saigai/fukkou/pdf/guideline_01.pdf

国際協力：災害リスク管理の全てにジェンダー視点が必要

災害にレジリエント
な社会の構築

災害
Disaster

災害予防・災害への
備え

防災計画、地域の防災
委員会、ハザードマッ
プや早期警報、避難訓
練にもっと女性の参加
が必要。

女性の平等
な参画と
リーダー
シップ

緊急対応

ジェンダー・多様性の視点に立った
対応が必要。女性が必要とする支
援物資を送る、女性の医師や看護
師、ケアワーカー、相談員を派遣す
る、女性が支援物資・資金や収入を
得られるようにする(Cash for Workな
ど)、女性への性的・ジェンダーに基
づく暴力の防止、人身取引や児童婚
の防止、等。

復旧・復興

復興計画、道路や建物などのインフラ復興支
援のみならず、もっと女性の生計回復支援や
女性に対する暴力対応が必要。



Agency エージェンシー

女性・少女の実現可能性の強化、女性・少女の主体性に基づく判断、選択、行動の促進

ジェンダー関係の 変革

人々の意識・行動変容、固定的性別役割の変革、ジェンダーに基づく権力関係の変革、女性に有害な規範や慣行の変革

構造的変革

ジェンダー平等の達成に向けた立法、司法、行政制度の改革、ジェンダー平等な社会・経済制度、組織の構築

ジェンダー変革アプローチ Gender Transformative Approach as a process for promoting gender mainstreaming

**Gender Equality
Framework (GEF)
by Care International**

<https://careclimatechange.org/wp-content/uploads/2016/08/Gender-Equality.pdf>

災害リスク削減におけるジェンダー変革アプローチの例

エージェンシー

- 女性や多様な人々が災害のリスクを理解し、備えることができる。
- 女性や多様な人々が、災害リスク削減に関するあらゆるレベルの意思決定過程に参加し、声を上げることができる。
- 女性や多様な人々が、主体的に交渉し、リーダーシップを発揮できるようになる、など

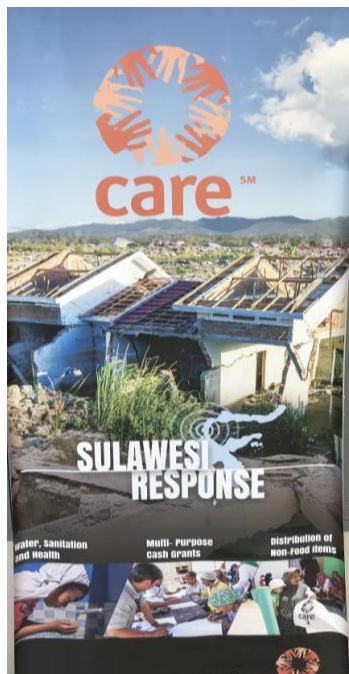
ジェンダー関係の変革

- 災害時のみならず平常時においても世帯およびコミュニティにおける、固定的な性別役割を変革する。ジェンダー意識の変革。
- 災害時のみならず平常時の女性の無償の家事・育児・介護などのケア労働の負担を削減する
- 災害時のみならず平常時においても、家庭および社会におけるすべての形態のジェンダーに基づく暴力(身体的、精神的、経済的、性的)を撤廃する。

構造変革

- ジェンダー平等の視点に立った災害・復興関連法、計画、支援制度を構築する。
- 災害に関する意思決定の場におけるジェンダー・クォータ制度を導入する(中央および地方の防災会議など)
- 災害関連組織や部署に、より多くの女性管理職、専門家や職員を採用する
- ジェンダー平等な労働法、財産・相続法、性と生殖に関する健康に関する法律などを制定し、実効性を高める。

ケア・インターナショナル・インドネシア緊急災害支援 2018年インドネシア・中部スラウェシ地震



ハリファさん(CAREの現地
リーダー:パル事務所)

- 被災後72時間以内に、**緊急ジェンダー調査**を実施(女性4名、男性3名)。それに基づき支援計画を作成。
- 女性のニーズに基づき、シェルターキット(毛布、まくら、ブルーシート)、調理用具(キッチン用品)、衛生キット(ナプキン、石鹸、バケツなど)を**10万個**、配布した。
- **Cash for Work**: 灌漑用水路の整備による現金収入事業(対象の6割は女性)
- **女性のための生計復興**: 農業、野菜栽培、畜産、小規模ビジネス、食品加工など。約1,000人対象。
- **仮設住宅**の建設支援(女性、高齢者、障害者に優しいデザイン、ソーラ発電で電気代を軽減)
- **防災女性グループ**を作り、防災研修を実施。防災マップ、避難計画、避難訓練を実施。

(田中:2019年9月現地調査より)

2015年ヴァヌアツのサイクロンPam:
CAREの災害復興支援
資料提供:Megan Williams



CARE International Vanuatu, 2017, *Does gender responsive disaster risk reduction make a difference?: A comparative study of Category Five Tropical Cyclone Pam in Vanuatu.*

- バヌアツは、サイクロン、火山、地震、津波、干ばつ、洪水の被害にあいやすいため、2010年からCAREはレジリエンスプログラムを実施。
- コミュニティ防災と気候変動委員会を作り、女性のリーダーシップ、委員会のジェンダー比率を改善する活動をしてきた。
- 2015年3月のサイクロンで、家屋、学校、保健センター、穀物、家畜が被害を受け、18万8000人が被害を受けた。全人口の70%。
- CAREが活動していた村では、男女がそれぞれ、災害における役割を認識し、復旧に対応した。また、コミュニティ全体で災害に取り組むというアプローチにより、脆弱な人々を守ることができた。
- ジェンダー平等と包摂を防災活動の中心に置き続けることにより、災害への備えもでき、被害が軽減できた。

JICA-Netライブラリ

<https://www.youtube.com/c/JICANetLibrary>



日本語版
『ジェンダーと多様性の視点に立っ
た防災・減災・復興』



英語版
Gender and Diversity in Disaster Risk
Reduction

最後に



クラウドファンディングに挑戦中！ 5月13日まで

トルコ・シリア地震 被災者緊急支援募金のお願い



集まった支援総額

1,094,000 円

目標金額

達成 **1,000,000 円**

NEXTゴール

1,500,000 円

109%

達成まで

406,000円

支援者数

17人

残り

18日

2023年5月13日まで

ケア・インターナショナル ジャパンは、国際NGO「CARE」の一員として、「トルコ・シリア地震被災者緊急支援募金」を開始しました。
皆さまのあたたかいご支援を、心よりお願い致します。

<https://congrant.com/project/care/6135>



ありがとうございました。



◆アンケートへのご協力をお願いします。

(所要時間 1 分程度)

<https://forms.gle/mbkBiRRoGvGeMSbV9>

